

一 告 告



久保田 涼介 (くぼた りょうすけ)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程二年
静岡県立浜松南高等学校出身

毎年、何かしらの目標を持って 一年を進められて充実しています。

久保田さんには一年間の浪人が転機となった。予備校で金沢工大を知ったのである。ものづくりの環境が整備され、グループ力を身につけるプロジェクトデザイン教育があることなど。高校の同級生が先に入学していて、生の声ももらったことも後押しとなった。

「ロボティクス学科のある大学はまだ少なく、金沢工大と千葉工大が有名でした。ぼくはアニメを通してなんですけど、ロボットに知能を持たせる、いわゆるAIに興味があり、研究室を選びました。小暮先生には学部時代から相談に乗ってもらいましたし、論理的で、かつ幅広い分野の知識を用いてぼくらの質問に対して多角的な視点から返してもらえます。」

指導する小暮潔教授の専門は、

実世界情報処理。久保田さんは、昨年五月に岐阜大学で開催された、電子情報通信学会のバターン認識・メディア理解研究会で、PRMU月間ベストプレゼンテーション賞を受賞した。

「それは、ニューラルネットワークを用いてプラスチックボトルやガラス瓶といった透明物体を含む画像から、透明物体の輪郭線を抽出する方法の開発です。現在はそれを発展させ、より現実的な環境への対応を目指しています。人間の目では簡単に見つけることができますが、プログラムでやろうとすると、なかなか難しいんです。一言でいうと、最近、話題になることが多いディープラーニングという技術になるんですけど。」

久保田さんは、小暮先生から言葉の問題についても鍛えられていく。自分の考えを相手に正確に伝えるには、どのような表現をすればいいのか。その下準備をしっかりと

りすることであり、この日も取材用のペーパーをつくってきていた。丁寧な語り口と文章から、久保田さんの礼儀正しさと頑張り屋の一面が見えてくる。

「夢考房のロボットプロジェクトでロボットの目を担当していて画像に興味を持ち始め、今の研究につながっているんです。だから就職は、画像関係の技術を活かせる企業を目標に活動しています。ともかく、毎年、何かしらの目標を持って一年を進めることができ、充実した学生生活です。」

ロボコンでも研究室でも優秀な先輩たちに恵まれて、彼らに負けないように自分を鼓舞するのだという久保田さん。さらに挑戦するのが大学院に進んだ目的だから、おもしろくて仕方がないということでもあった。

金沢工業大学
石川県野々口市扇が丘七丁目
電話番号(076)248-1100

KIT
キャンパス
レポート
文・出島二郎
マーケティングプランナー